



## 2023年6月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2023年2月14日

上場会社名 株式会社エアークローゼット  
コード番号 9557 URL <https://corp.air-closet.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 天沼 聡  
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 アセット戦略室長 (氏名) 森本 奈央人

TEL 03-6452-8654

四半期報告書提出予定日 2023年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年6月期第2四半期の業績(2022年7月1日～2022年12月31日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年6月期第2四半期	1,796		74		108		156	
2022年6月期第2四半期								

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年6月期第2四半期	19.55	
2022年6月期第2四半期		

(注)1. 当社は、2022年6月期第2四半期累計期間については四半期財務諸表を作成していないため、2022年6月期第2四半期の数値及び対前年同四半期増減率並びに2023年6月期第2四半期の対前年同四半期増減率については記載していません。

2. 2023年6月期第2四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載していません。

#### (2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	%	百万円	%	%
2023年6月期第2四半期	2,664		729		27.4
2022年6月期	2,186		323		14.7

(参考)自己資本 2023年6月期第2四半期 729百万円 2022年6月期 322百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年6月期		0.00		0.00	0.00
2023年6月期		0.00			
2023年6月期(予想)				0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年6月期の業績予想(2022年7月1日～2023年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,277	26.2	110		53		114		13.97

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 有  
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年6月期2Q	8,141,800 株	2022年6月期	7,376,000 株
期末自己株式数	2023年6月期2Q	株	2022年6月期	株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年6月期2Q	8,023,544 株	2022年6月期2Q	株

(注)当社は、2022年6月期第2四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、2022年6月期第2四半期の期中平均株式数を記載していません。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法)

当社は、2022年2月14日(火)に決算説明会の開催を予定しており、当日使用する決算説明会資料は、当社ウェブサイトに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
第2四半期累計期間 .....	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
(会計上の見積りの変更) .....	8
(セグメント情報等) .....	8
(重要な後発事象) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行の影響を受け、その長期化・再拡大への懸念から、昨年度に続き経済活動への制限・自粛が継続された期間となりました。国内ではワクチン接種の拡充や行動制限の緩和など平常化につながる動向が生まれており、人流についても回復傾向にあるものの、依然として経済活動の完全な再開への先行きについては不透明な状況が続いています。

ファッション市場は、かかる状況を受けたテレワークの一般化に伴う外出需要の低下に加え、世界的な原材料・素材価格の上昇、物流コストの高騰等により、マイナス影響の大きい市場となっています。一方で、消費者の購買行動が変容し、EC化率が上昇しています。この流れのなか、当社の提供するサービスは、ファッション市場全体に関する上記諸課題の影響を受けつつも、ECサービスであること、在宅でサービスが受けられることなどが奏功し、継続的に需要を獲得しています。

また、当社は、情報量が爆発的に増加し、個人の時間価値が相対的に高まっていく現代社会において、パーソナルスタイリングの要素を強みとしてファッションレンタルサービスのパイオニアとしてのポジションを維持し、市場を牽引する立場として成長を遂げております。

さらに、2022年には自社サービス内における衣服の廃棄ゼロを実現しています。サステナビリティの観点から転換が求められるファッション業界において、当社はサーキュラーエコノミーを実現する企業としても一層の事業推進を行ってまいります。

これらの結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高1,796,412千円、EBITDA（営業利益＋レンタル用資産償却費＋減価償却費）92,869千円、営業損失74,835千円、経常損失108,135千円、四半期純損失156,865千円となりました。

なお、当社は、パーソナルスタイリング事業のみの単一セグメントであるため、セグメントごとの記載を省略しております。

### （2）財政状態に関する説明

#### ①資産、負債及び純資産の状況

##### （資産）

当第2四半期会計期間末における流動資産は1,898,678千円となり、前事業年度末に比べ318,990千円増加しました。これは主に、上場に伴う公募増資等による現金及び預金の増加259,121千円によるものであります。固定資産は765,584千円となり、前事業年度末に比べ158,979千円増加しました。これは主に、年間を通じての月額会員数の増加に応じて、必要在庫数が増加したことに伴いレンタル用資産が158,998千円増加したことによります。

この結果、総資産は2,664,262千円となり、前事業年度末に比べ477,970千円増加しました。

##### （負債）

当第2四半期会計期間末における流動負債は739,543千円となり、前事業年度末に比べ77,872千円増加しました。これは主に、資金調達により短期借入金が30,413千円増加したことによります。固定負債は1,194,915千円となり、前事業年度末に比べ6,665千円減少しました。これは、返済により長期借入金が6,665千円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は1,934,458千円となり、前事業年度末に比べ71,207千円増加しました。

##### （純資産）

当第2四半期会計期間末における純資産は729,803千円となり、前事業年度末に比べ406,762千円増加しました。これは、上場に伴う公募増資等により資本金及び資本剰余金がそれぞれ281,814千円増加し、四半期純損失計上による利益剰余金の減少156,865千円によるものであります。

この結果、自己資本比率は27.4%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前事業年度末より259,121千円増加し、1,398,719千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

税引前四半期純損失155,720千円に減価償却費等の非資金項目、営業活動に係る債権・債務の加減算を行った結果、営業活動によるキャッシュ・フローは135,515千円の収入となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果支出した資金は459,630千円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出459,580千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は583,236千円となりました。これは主に、株式の発行による収入563,628千円によるものであります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年6月期の業績予想につきましては、2022年8月12日に「2022年6月期決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はございません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年6月30日)	当第2四半期会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,139,598	1,398,719
売掛金	334,177	354,862
商品	42,448	37,890
貯蔵品	8,796	11,125
前払費用	30,224	41,231
その他	28,037	58,521
貸倒引当金	△3,596	△3,673
流動資産合計	1,579,687	1,898,678
固定資産		
有形固定資産		
レンタル用資産（純額）	234,817	393,815
機械装置（純額）	68,238	68,652
工具、器具及び備品（純額）	6,683	6,670
その他（純額）	5,068	4,887
有形固定資産合計	314,807	474,025
無形固定資産		
ソフトウェア	1,916	1,629
無形固定資産合計	1,916	1,629
投資その他の資産		
長期預金	200,000	200,000
敷金	88,235	88,285
その他	1,644	1,644
投資その他の資産合計	289,879	289,929
固定資産合計	606,604	765,584
資産合計	2,186,291	2,664,262

（単位：千円）

	前事業年度 (2022年6月30日)	当第2四半期会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	120,138	127,432
短期借入金	252,923	283,336
1年内返済予定の長期借入金	21,146	17,006
未払金	86,681	115,831
未払費用	7,310	12,534
未払法人税等	10,360	1,145
前受金	120,698	125,739
預り金	24,554	30,686
契約負債	17,858	20,109
その他	—	5,723
流動負債合計	661,671	739,543
固定負債		
長期借入金	1,174,683	1,168,018
資産除去債務	20,704	20,704
その他	6,192	6,192
固定負債合計	1,201,580	1,194,915
負債合計	1,863,251	1,934,458
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,116,273	1,398,087
資本剰余金	1,258,829	1,540,643
利益剰余金	△2,052,862	△2,209,728
株主資本合計	322,240	729,003
新株予約権	800	800
純資産合計	323,040	729,803
負債純資産合計	2,186,291	2,664,262

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)
売上高	1,796,412
売上原価	920,777
売上総利益	875,635
販売費及び一般管理費	950,470
営業損失(△)	△74,835
営業外収益	
受取利息	4
雑収入	370
営業外収益合計	375
営業外費用	
支払利息	9,659
上場関連費用	24,016
営業外費用合計	33,676
経常損失(△)	△108,135
特別損失	
減損損失	47,584
特別損失合計	47,584
税引前四半期純損失(△)	△155,720
法人税等	1,145
四半期純損失(△)	△156,865



## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税引前四半期純損失（△）	△155,720
減価償却費	167,704
減損損失	47,584
貸倒引当金の増減額（△は減少）	76
契約負債の増減額（△は減少）	2,250
受取利息	△4
支払利息	9,659
売上債権の増減額（△は増加）	△20,684
棚卸資産の増減額（△は増加）	2,229
仕入債務の増減額（△は減少）	7,631
未払又は未収消費税等の増減額	7,624
未払金の増減額（△は減少）	29,150
前受金の増減額（△は減少）	5,040
その他	43,773
小計	146,316
利息の受取額	4
利息の支払額	△9,659
法人税等の支払額	△1,145
営業活動によるキャッシュ・フロー	135,515
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	△459,580
敷金及び保証金の差入による支出	△50
投資活動によるキャッシュ・フロー	△459,630
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
株式の発行による収入	563,628
短期借入金の純増減額（△は減少）	30,413
長期借入金の返済による支出	△10,805
財務活動によるキャッシュ・フロー	583,236
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	259,121
現金及び現金同等物の期首残高	1,139,598
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,398,719

## (4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年7月29日をもって東京証券取引所グロース市場に上場いたしました。上場にあたり、2022年7月28日を払込期日とする有償一般募集（ブックビルディング方式）増資による新株式733,000株の発行により、資本金及び資本剰余金はそれぞれ269,744千円増加しております。

また、2022年8月30日を払込期日とする有償第三者割当増資（オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資）による新株式32,800株の発行により、資本金及び資本剰余金はそれぞれ12,070千円増加しております。

この結果、当第2四半期会計期間末において、資本金が1,398,087千円、資本剰余金が1,540,643千円となっております。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計上の見積りの変更)

(耐用年数の変更)

当社が保有するレンタル用資産は、従来、耐用年数を12ヵ月として減価償却を行ってきましたが、レンタル用資産の利用期間実績が伸長していることを踏まえ、第1四半期会計期間より、耐用年数を18ヵ月に見直し、将来にわたり変更しております。これにより、従来の方法に比べて、当第2四半期累計期間の営業損失及び経常損失は29,453千円減少し、税引前四半期純損失は89,156千円減少しております。

(セグメント情報等)

当社の事業セグメントは、パーソナルスタイリング事業のみの単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

(新株予約権の行使による増資)

当四半期会計期間末後、2023年1月31日までの間に、第3回新株予約権について、権利行使が行われております。当該新株予約権の権利行使の概要は、次のとおりであります。なお、これにより、第3回新株予約権のすべてが行使完了しております。

(1) 発行した株式の種類及び株式数	普通株式	52,800株
(2) 増加した資本金		12,672千円
(3) 増加した資本準備金		12,672千円

これにより、2023年2月14日現在の普通株式の発行済株式総数は8,194,600株、資本金は1,410,759千円、資本剰余金は1,553,315千円となっております。